

平成 22 年度 学校自己評価システムシート (県立羽生第一高等学校)

目指す学校像	地域に根ざした進学校として、自主・自律の精神を育み、「求めて強き風に立つ」力強さを育てる学校
--------	--

重点目標	1 生徒一人一人の学力の向上を通して、より高いレベルの進路実現を図る。 2 家庭と連携して、規範意識の醸成に努めると共に、不屈の精神を育てる。 3 開かれた学校づくりを推進し、生徒募集を安定させる。 4 施設・設備の改善と整備に努め、学習環境を整える。
------	---

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	5名
	生徒	3名
	事務局(教職員)	7名

※重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価					学 校 関 係 者 評 価			
年 度 目 標					実 施 日 平 成 2 3 年 3 月 1 日			
番	現 状 と 課 題	評 価 項 目	具 体 的 方 策	方 策 の 評 価 指 標	評 価 項 目 の 達 成 状 況	次 年 度 へ の 課 題 と 改 善 策		
1	<ul style="list-style-type: none"> 平日の家庭学習時間が平均2時間、現役で、国公立大合格10名、4年制大学進学率70%を目標に取り組んでいる。 定期考査や課題考査には計画的に取り組む反面、各種模試(実力テスト)の取組と活用が不十分な生徒が多い。 地元県立大学等、受験希望者の多い大学をはじめ、専門学校や就職にも対応した個別指導の工夫と継続が求められる。 	学習習慣の定着と進路実現	<ul style="list-style-type: none"> シラバス付属の学習計画表や学習プランシートを活用し、1・2年では年3回学習時間の調査を行う。 初任研や10年研を利用して各教科で授業研究を行う。 1・2年次に進路情報や補習の機会を多く提供し、推薦やAOに頼らない生徒を多教育する。 推薦条件と進路決定後の事後指導を見直す。 3年次のセンター直前補習や1・2年次の進学補習等、3学期の活用を見直す。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習計画やその中身について、生徒と担任、保護者が課題を共有できる。 1・2年で、平日の家庭学習時間が平均で2時間になる者が50%を超える。 分かる授業や興味を引く授業、家庭学習が前提となる授業や課題、身につけるべき最低限の学力等について各教科で研究が進む。 補習と部活の調整を図る。 1・2年次の補習の講座数と参加者数が増える。 安易に推薦やAO入試を考える生徒が減る。 先進校視察や研修会に参加する教員が増える。 	<ul style="list-style-type: none"> 平日の家庭学習時間2時間以上の割合は、 春 → 秋 → 冬 1年：19.6% 6.8% 5.5% 2年：8.2% 7.5% 4.2% と、目標に遠く及ばなかった。 定期の三者面談以外でも、生徒面談は各クラスで適宜頻繁に行われた。 課題提出や小テストの継続等、各教科・学年で、生徒の学習習慣定着に向けて様々な取組が年間を通してなされた。 授業確保の観点から学期末6時間授業実施。 2月4日現在、4年制74名(内国公立3名)を含め129名が進路先を決めている。指定校や公募推薦が激減しAOが微増した。 きめ細かな進路指導を目指して、全教員のパソコンにファインシステムを導入した。 高崎量子応用研究所と連携したSPPに参加 	C	<ul style="list-style-type: none"> 年3回の家庭学習時間調査が定着したので、どの時期に何を目標にどんな形態で学習指導を行うか、組織をあげて研究する。入学直前に、学習オリエンテーションでスタートすることを決めたが、その後に続く第2弾、第3弾の企画が求められている。 1年6講座、2年5講座、3年18講座の進学補習を実施したが、部活動との兼ね合いや定着率の向上が課題である。 2年次秋以降、62名の生徒対象に国公立分科会がスタートしたので、進路指導のシステムとして育てていきたい。 SPPで生徒の意欲を引き出す 	<ul style="list-style-type: none"> 中学校までに身につけさせなければならない家庭学習習慣、改めて中学校で再確認しなければならないことを痛感した。 塾から離れてしまうと自分の力で学習できなくなってしまう生徒の様子がよく分かった。 高校生になったら、勉強するもしないも自己責任だと思うが、春の学習時間調査の後、頑張っている先輩(仕事の後専門学校へ通ってスキルアップを図っている社会人等)を呼んで、現実の厳しさや今勉強することの大切さ等を知らせることが大事。同じことでも教師以外の方の話を聴くことが大切。 具体的な学習オリエンテーションをやっていただけのことでは、保護者からみれば大変ありがたい。期待したい。
2	<ul style="list-style-type: none"> 素直な生徒達であるが、交通事故や盗難事件もあり、保護者と連携した繰り返しの生活指導が大切である。 目指す学校像を折に触れて理解させ、困難に立ち向かうことのできる力を身につけさせる。 	規範意識の醸成と不屈の精神の育成	<ul style="list-style-type: none"> 機会あるごとに保護者の協力を得、整容や言葉遣い、携帯電話等についての指導を徹底する。 盗難に遭わない自己管理能力の向上を図る。 自転車事故の具体例を使って、事故回避能力の向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 整容や言葉遣い、携帯電話等について指導する回数が減る。 交通事故等発生件数が減る。 体力テストで全種目が県平均を上回る。 校歌を歌う声や返事や挨拶の声が大きくなる。 我が子にたくましさを感じる保護者が6割を超える 	<ul style="list-style-type: none"> 自転車通学者の雨天時カッパの着用(傘なし乗車禁止)やツーロックの徹底、校内での貴重品管理の徹底と巡回等を通して、盗難や交通事故が激減した。 体力テストは48種目中42種目で県平均を上回り、その全国偏差値は、 1年 2年 3年 男：52.9 52.3 52.6 女：54.0 53.6 54.4 となる。 我が子にたくましさを感じる保護者は、全校平均で49.3%(昨年比1.2%増) 	B	<ul style="list-style-type: none"> 本校生を一市民と見た場合、服装や頭髪等安心してみられるという保護者が59.9%に対して生徒は33.0%なので、両者のギャップを埋める指導が必要。 体育科の指導の工夫は、ルーチン形成の参考になっている。 座学での受け答えや音読、集会時の校歌斉唱等で、もっと声を出させる指導を徹底する 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の駅の利用の仕方や登下校の様子等確認する意味で、教師が直接現場へ出向いたり、駅周辺を毎朝清掃されているボランティアの方の話を聞けるとよい。一部の生徒の行動が市民の誤解を招き、学校の評判を下げないとも限らないので、注意を払って欲しい。 勉強と部活動との両立を図らせて、生徒にたくましさをもたせたい。
3	<ul style="list-style-type: none"> 新入試の本校の基準は地元中学から好評であったが、進学者数は微増に停滞し、生徒募集が引き続きの課題である。 羽生市「学びあい夢プロジェクト」に併せ、地域交流をより活性化させる。 	開かれた学校づくりと本校への進学希望者の増加	<ul style="list-style-type: none"> 市内県立5校と3中学校との連携を強化する。 学校説明会の内容と配布物を更に工夫する。 70万人体験活動とも関連させて、小学校との交流等各種の交流事業の充実と発展を図り、広報にも努める 同窓会の新たな支援活動を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> 前年比で、地元中学からの進学希望者数が10%学校説明会の参加者数が5%、受検者数が5%増加する。 各種交流事業等本校の取組が新聞報道等され、地域から好評を得る。 同窓会の新たな取組が計画される。 	<ul style="list-style-type: none"> 前期募集の志願者は、昨年比で、羽生市内7.4%減、行田市市内39.5%減、加須市内38.8%減と、激減してしまった。 年間5回実施の学校説明会は大変好評だったが、希望者増には結びつかなかった。 子ども科学実験教室や小高交流、あいのまち100km徒歩の旅、学びあい夢プロジェクト、マロニエ杯、ショッピングモールにおける龍馬壁画の展示やクリスマスコンサート、郷土芸能会司会等々、地域連携の多くが新聞報道され好評だった。 1万人を超えた同窓生全員に総会の案内を出し、役員会・総会が催された。 	C	<ul style="list-style-type: none"> 市内県立5校と3中学校との連携と交流を更に深める。 様々な努力とそれに対する評価が、生徒募集の数値に結びつかなかったことを検証した上で、選ばれる学校づくりに組織をあげて取り組む。 同窓会事務局の立ち上げにより、予算の有効活用と現役生への支援活動を計画する。 青年会議所やショッピングモール等、地域の人材や環境を最大限活用する。 	<ul style="list-style-type: none"> 市内公民館等への資料配付は、本校のことが市民の目に触れてとてもいいことなので、ぜひ継続してもらいたい。 部活動によっては、何年も前の記事のままだったりするので、ホームページの更新にもっと気配りして欲しい。ホームページによって学校を考える中学生は多い。 卒業生が新聞等で話題になったりしたら全生徒にそのことを伝えて、本校に誇りを持たせると同時に、自分にも自信を持たせて欲しい。
4	<ul style="list-style-type: none"> 開校35年となり、施設・設備の老朽化が問題となっている。 生徒にもっとも身近な机や椅子の更新も部分的な対応だけでは不十分になっている。 	快適な学習環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> 日常の点検で放置を無くし可能な限り改修と更新を進める。 予算の選択と集中で、計画的な改修を推進する。 美化委員会や各学年、部活動等の清掃・ボランティア活動を工夫して、校内外の清掃と美化に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 1学年分の机、椅子、出入り口のドア、カーテンが更新される。 破損のまま放置された箇所が無くなる。 「校内の環境美化活動が盛んである。」と、答える生徒が50%を超える。 	<ul style="list-style-type: none"> 今年は、1階全教室のドアと机、椅子の更新、自転車置き場の改修等を独自に行った。 献血には66名もの生徒が参加し、ボランティア精神を示してくれた反面、校内美化活動が盛んと思う生徒は15.8%に停まった。 部室の一斉清掃が定例化した。 保護者負担の軽減と機能性を求めて、体育着と女子の制服変更24年度実施を決めた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 3階全教室のドアと机、椅子の更新を図る。 生徒会や委員会を通して、環境美化や各種ボランティア活動の活性化を工夫する。 各学年ごとに、清掃分担箇所と割り当て人数、点検方法を見直す。 	<ul style="list-style-type: none"> 改修工事も大切だが、古いものを大事にきれいに使う取組はそれ以上に意味のあること。35年間大改修もなく、きれいに管理されてきた本校は素晴らしいと思う。 公開授業等の際に、学校外の方に清掃チェック等してもらおうと、課題や改善点等も見えてよいと思う。